

海外演奏旅行 学生ブラスバンド51人の



インドネシアに行く日大吹奏楽研究会のブラスバンド

スカルノ大統領からの招待を受けて

パレードに強い
日本大学のブラス
バンドが、ことし
の夏休み、インド
ネシアに海外演奏
旅行をする。
親日家のスカル
ノ大統領から、き

たる八月十七日ジャカルタで開か
れるインドネシア独立二十周年記
念式典に参加するよう招待を受け
たからだ。
一行は同大学吹奏楽研究会のメ
ンバー、総勢五十一人。八月十四
日、日本を出発して、十七日の記
念式典に参加、翌十八日ジャカル

タ市内をパレードしたあと、スマ
トラ、スラバヤ、バリ、セレベス
などをまわって九月七日に帰国す
る。

招待があったのは、ことしの二
月ごろ。現地に行っている日大の
先輩を通じて、できれば日本じゅ
うの大学からの選抜チームを招き
たいが、という話だったが、練習
などの関係でムリだということに
なり、それなら単独チームでと、

同大学に白羽の矢が立った、とい
う。

正式の招待状が、外務省を通じ
てとどいたのが五月の中旬。だ
が招待状には、

「滞在費はこちらでもつが、旅費
はそちらで……」

とあった。旅費の総額は七百万
円。学校補助、クラブの部費、寄
付金などで、半額の三百五十万円
はどうかくめんできる見通しが

たったが、残りはどうしても部員
の個人負担となる。一人あたり七
万円。サラリーマンの子弟では、
ちょっとイタイ金額だ。

といってバンドの編成上希望者
だけというわけにはいかない。部
の幹部が父兄ひとりひとりに趣旨
を話して説得に歩いた。

またインドネシアは政治が活発
に動いている国だから——という
不安の声もあった。アルジェリア

のようなことが起きな
いものでもないという
不安だ。そこで部員の
間で何度も研究・討論
が重ねられ、インドネ
シアへの理解を深め
た。こうして招待を受
ける「決意と資金」が
できあがったのが六月
末。

「この一ヵ月間、ほん
とに苦労しました
よ。部員たちが集まっ
ていろいろな要因をデ
ィスカッションしまし
た。国際関係、不況、
日韓問題、日本の未来、
といったいろいろな観
点を積み重ねて、行く
べきかいなかを話し合
いました。日大にきて
いるインドネシア留学

生から話をきいたり、外務省に問
い合わせたり……、たんに外国に
行くというだけでなく、こうした
ディスカッションから生まれたサ
ークル活動としての収穫が実に大
きかったと思います」

て、インドネシアの政治、経済、
文化などのあらゆる面を勉強して
こようと思います。また民間親善
使節としても、全力をつくしてく
るつもりです」

というのがキャプテンの小泉具
之君(法学部四年)の抱負。

この研究会が生まれたのは昭和
二十九年。応援部のブラスバンド
から独立して、もつと音楽的なも
のを追究しようという目的で、当
時学生だった佐藤監督を中心に発
足した。はじめ八人だった部員も、
現在は九十人を越える大世帯。大
学のブラスバンド・チームとして
は全国で、一、二を争う実力をも
つようになった。佐藤監督は、い
ま全日本学生吹奏楽連盟の理事長
をしている。

「こんどの旅行は音楽だけに終わ
らず、大学生としての自覚をもつ